

米国農務省穀物等需給報告(2022年5月12日発表のポイント)

令和4年5月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、5月12日(現地時間)、2022/23年度の1回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。
－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 27億 6,533万トン(対前年度比 1.0%減)
- ② 消費量: 27億 8,591万トン(対前年度比 0.2%減)
- ③ 期末在庫量: 7億 8,363万トン(対前年度比 2.6%減)
期末在庫率: 28.1%(対前年度差 0.7ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、カナダ、米国等で増産もウクライナ、豪州等で減産となることから、前年度を下回る見通し。カナダは前年度の干ばつから回復、米国は冬小麦が減産も春小麦が回復し小麦全体で増産。一方、ウクライナはロシアの侵攻により前年度より 1,150万トン減産する見通し。世界の消費量は、食用は増加するものの、中国等で飼料用その他需要が減少することから、前年度をわずかに下回る見通し。世界の生産量は、消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、世界の輸出量は史上最高も、ウクライナの輸出量は減産に加え、輸出ロジスティクスの制約から大きく減少する見通し。

- ① 生産量: 7億 7,483万トン(対前年度比 0.6%減)・カナダ、ロシア、米国等で増加、ウクライナ、豪州、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 7億 8,752万トン(対前年度比 0.4%減)・中国、インド等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億 6,702万トン(対前年度比 4.5%減)・インド、EU等で減少。
期末在庫率: 33.9%(対前年度差 1.5ポイント減)

とうもろこし : 世界の生産量は、ブラジル、アルゼンチン等で増産となるもの、ウクライナや米国で減産となることから前年度を下回る見通し。米国では5月中旬までの作付け遅れにより、単収が前年度並みで、伸び悩む見通し。世界の消費量は、米国も含めて前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、世界の輸入量は、中国でウクライナ産の輸入が減少すること等から減少する見通し。

- ① 生産量: 11億 8,072万トン(対前年度比 2.9%減)・ブラジル、アルゼンチン等で増加、ウクライナ、米国、EU等で減少
- ② 消費量: 11億 8,497万トン(対前年度比 1.2%減)・中国、ブラジル等で増加、米国、ウクライナ等で減少
- ③ 期末在庫量: 3億 513万トン(対前年度比 1.4%減)・ブラジル等で増加、中国、米国等で減少
期末在庫率: 25.8%(対前年度差 0.0ポイント減)

コメ(精米) : 世界の生産量は、中国、インド、バングラデシュで前年度より増産となることから、史上最高となる見通し。世界の消費量もインド、中国で増加し、史上最高となる見通し。世界の生産量が消費量を下回り、世界の期末在庫量は中国で減少するため、前年度を下回る見通し。

- ① 生産量: 5億 1,463万トン(対前年度比 0.3%増)
- ② 消費量: 5億 1,844万トン(対前年度比 1.5%増)・インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億 8,626万トン(対前年度比 2.0%減)・中国等で減少
期末在庫率: 35.9%(対前年度差 1.3ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイで前年度からの干ばつによる減産から回復することや、米国で前年度より収穫面積が増加することから、史上最高となる見通し。中国の搾油需要と輸入量が回復することから、世界の消費量は前年度を上回る見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- ① 生産量: 3億 9,469万トン(対前年度比 13.0%増)・ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、米国等で増加
- ② 消費量: 3億 7,744万トン(対前年度比 4.0%増)・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,960万トン(対前年度比 16.8%増)・ブラジル、アルゼンチン、米国等で増加
期末在庫率: 26.4%(対前年度差 2.9ポイント増)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年5月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,724.13	2,793.56	2,765.33 ▲	1.0%	—	2,295.7
消費量		2,739.91	2,790.99	2,785.91 ▲	0.2%	—	2,284.4
期末在庫量		801.64	804.21	783.63 ▲	2.6%	—	480.3
期末在庫率		29.3%	28.8%	28.1% ▲	0.7	—	21.0%
小麦							
生産量		775.72	779.29	774.83 ▲	0.6%	—	660.5
消費量		782.42	790.79	787.52 ▲	0.4%	—	680.0
期末在庫量		291.22	279.72	267.02 ▲	4.5%	—	181.1
期末在庫率		37.2%	35.4%	33.9% ▲	1.5	—	26.6%
粗粒穀物							
生産量		1,439.10	1,501.42	1,475.87 ▲	1.7%	—	1,159.1
消費量		1,453.92	1,489.60	1,479.95 ▲	0.6%	—	1,139.5
期末在庫量		322.61	334.42	330.35 ▲	1.2%	—	175.8
期末在庫率		22.2%	22.5%	22.3% ▲	0.1	—	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,129.00	1,215.62	1,180.72 ▲	2.9%	—	898.8
消費量		1,143.29	1,199.40	1,184.97 ▲	1.2%	—	877.4
期末在庫量		293.17	309.39	305.13 ▲	1.4%	—	144.8
期末在庫率		25.6%	25.8%	25.8% ▲	0.0	—	16.5%
コメ(精米)							
生産量		509.31	512.86	514.63	0.3%	—	476.1
消費量		503.57	510.60	518.44	1.5%	—	464.9
期末在庫量		187.81	190.07	186.26 ▲	2.0%	—	123.5
期末在庫率		37.3%	37.2%	35.9% ▲	1.3	—	26.6%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		368.12	349.37	394.69	13.0%	—	269.1
消費量		363.84	362.93	377.44	4.0%	—	265.1
期末在庫量		99.91	85.24	99.60	16.8%	—	58.7
期末在庫率		27.5%	23.5%	26.4%	2.9	—	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2022)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2022年5月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		429.86	449.59	434.96	▲ 3.3%	—	353.0
消費量		351.02	360.09	352.87	▲ 2.0%	—	317.1
輸出量		107.45	95.97	92.08	▲ 4.1%	—	51.6
期末在庫量		58.40	58.11	55.31	▲ 4.8%	—	44.2
期末在庫率		12.7%	12.7%	12.4%	▲ 0.3	—	12.0%
小麦							
生産量		49.75	44.79	47.05	▲ 5.0%	—	61.3
消費量		30.48	30.65	30.21	▲ 1.4%	—	37.8
輸出量		26.99	21.91	21.09	▲ 3.7%	—	27.5
期末在庫量		23.00	17.82	16.84	▲ 5.5%	—	19.5
期末在庫率		40.0%	33.9%	32.8%	▲ 1.1	—	29.9%
粗粒穀物							
生産量		372.89	398.71	382.10	▲ 4.2%	—	285.3
消費量		315.70	324.76	318.12	▲ 2.0%	—	275.5
輸出量		77.48	71.36	68.39	▲ 4.2%	—	20.7
期末在庫量		34.01	39.10	37.41	▲ 4.3%	—	23.5
期末在庫率		8.6%	9.9%	9.7%	▲ 0.2	—	7.9%
とうもろこし							
生産量		358.45	383.94	367.30	▲ 4.3%	—	273.2
消費量		306.54	315.86	309.01	▲ 2.2%	—	263.0
輸出量		69.92	63.50	60.96	▲ 4.0%	—	18.5
期末在庫量		31.36	36.57	34.54	▲ 5.6%	—	20.9
期末在庫率		8.3%	9.6%	9.3%	▲ 0.3	—	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.22	6.09	5.80	▲ 4.8%	—	6.3
消費量		4.85	4.68	4.54	▲ 3.0%	—	3.8
輸出量		2.98	2.70	2.60	▲ 3.7%	—	3.4
期末在庫量		1.39	1.19	1.05	▲ 11.8%	—	1.2
期末在庫率		17.8%	16.1%	14.7%	▲ 1.4	—	16.1%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	120.71	126.28	4.6%	—	82.8
消費量		61.05	63.47	64.78	2.1%	—	48.6
輸出量		61.52	58.24	59.87	2.8%	—	36.1
期末在庫量		6.99	6.39	8.43	31.9%	—	3.8
期末在庫率		5.7%	5.3%	6.8%	1.5	—	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 12, 2022)

「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向（2022年）

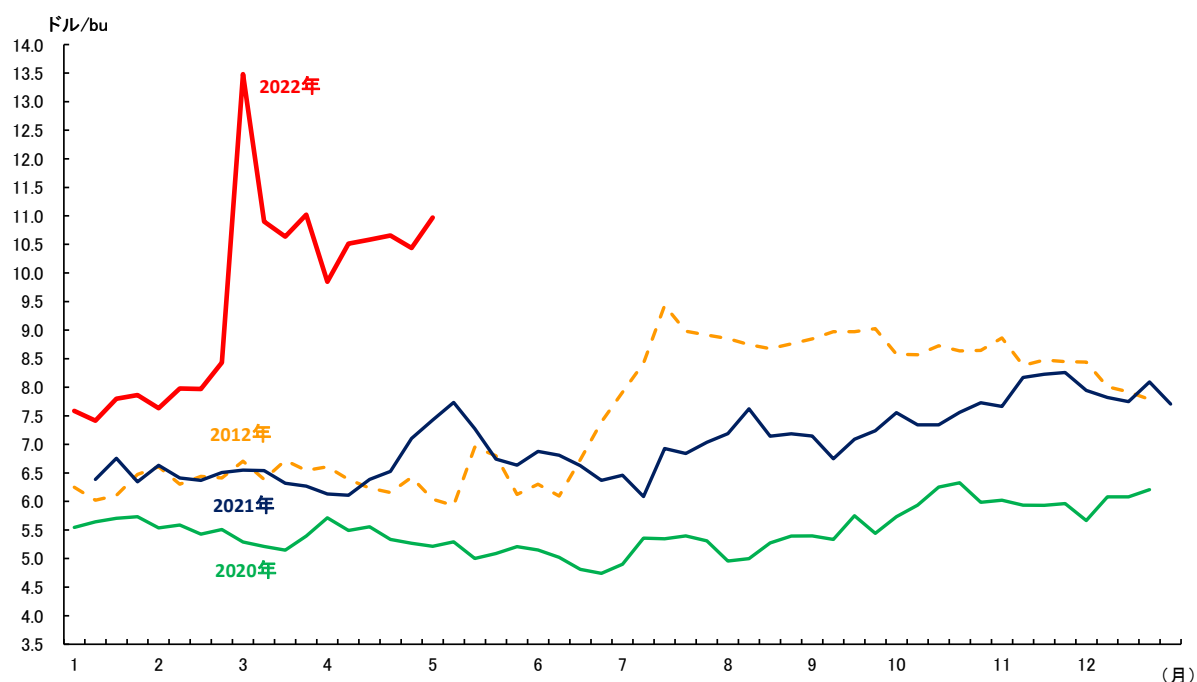
● 小麦：10.97ドル/bu（前年同時期の価格：7.74ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2022年5月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：14.25ドル/bu(2022年3月7日)】

1月に入り、アルゼンチン産小麦の豊作や、USDA 1月需給報告での市場予想を上回る世界の期末在庫量も、7ドル/bu 台前半から半ばで推移。その後、乾燥が続いていた米国中西部での寒波の影響懸念や、ウクライナ情勢の緊張から、8ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報等から、7ドル/bu 台半ばで推移した。

2月に入り、米国冬小麦産地での降雨等も7ドル/bu 台半ばで推移。2月中旬以降、ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念等から値を上げ、3月7日には史上最高の14.25ドル/buに値を上げた。その後は、黒海地域の輸出の混乱も、USDA発表の作付意向面積が前年度に比べ増加したこと等から10ドル/bu 前後に値を下げた。

4月に入り、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化による世界的な小麦の供給懸念や、冬小麦の主産地の米国プレーンズの乾燥による作柄への影響懸念等から11ドル/bu 台前半まで上昇したものの、米国の低調な輸出需要等から値を下げ、4月末現在、10ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

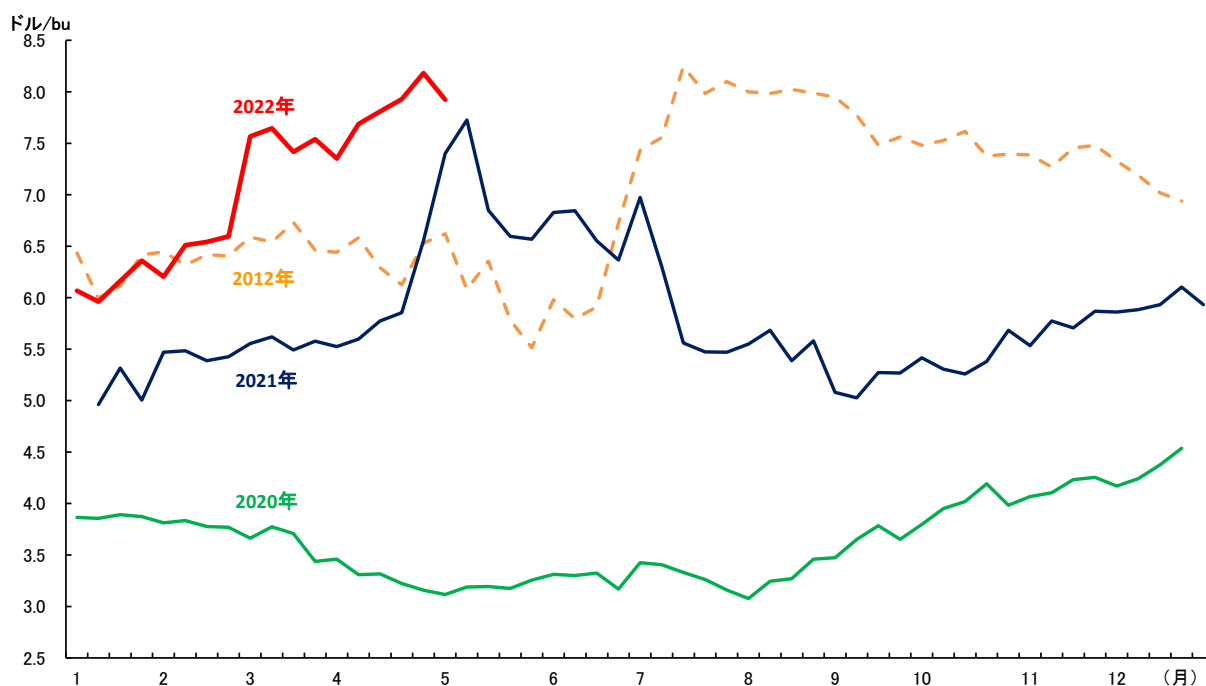
● とうもろこし：7.92ドル/bu（前年同時期の価格：7.72ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2022年5月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)】

1月に入り、南米の乾燥懸念に支えられ6ドル/bu前後で推移したものの、1月半ばに、南米の短期的な降雨予報等から5ドル/bu台後半に値を下げた。その後、原油価格の上昇、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から6ドル/bu台前半に値を上げた。

2月に入り、南米の短期的な降雨予報等で一時値を下げたものの、2月中旬から3月中旬にかけて、ロシアのウクライナ侵攻やラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥による減産懸念、原油価格の上昇等から7ドル/bu台半ばに値を上げた。その後も、ウクライナ情勢や原油価格の上昇に加えて、市場予想を下回るUSDA発表の作付意向面積等に支えられ、7ドル/bu台半ばで推移。

4月に入り、ロシアによるウクライナ侵攻の深刻化、米国中西部の低温や雨がちな天候による作付けの遅れ、原油価格の高止まり等から値を上げ、4月末現在、8ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：483 ドル/トン（前年同時期の価格：518 ドル/トン）

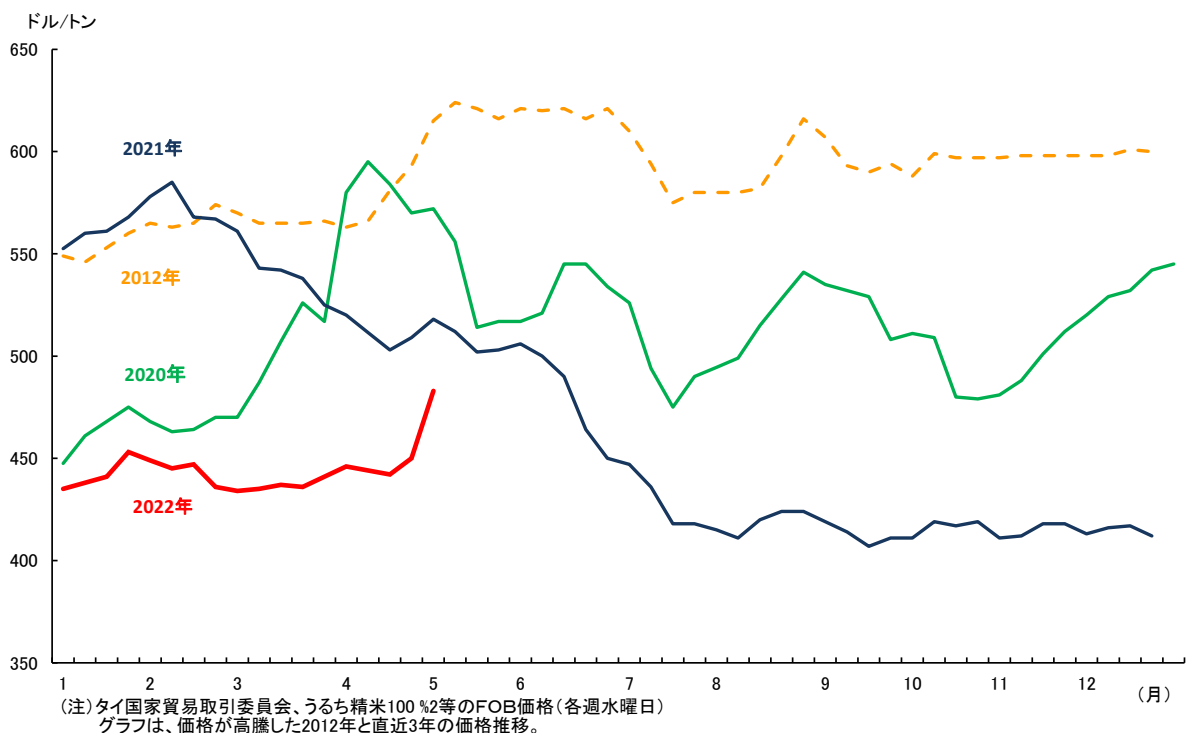
【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2022年5月第1水曜日のFOB価格。史上最高値：1,038ドル/トン(2008年5月21日)】

1月に入り、アフリカを始めとした国際市場におけるタイ米への強い需要やバーツ高等により、450ドル/トン台前半に値を上げた。

2月に入り、旧正月の休暇期間などによる需要の減少などから、2月中旬には440ドル/トン台半ばまで値を下げ、その後もバーツ高により海外からの需要が減少したことで更に430ドル/トン台半ばまで値を下げた。

3月に入り、ロシアのウクライナ侵攻が深刻化する中においても、コメについては新規需要が乏しく、ほぼ横ばいで推移したものの、3月下旬からアフリカ諸国や中東からの需要で値を上げ、440ドル/トン台前半で推移。

4月に入り、バーツ安の一方で、ラマダンを迎えたアフリカ諸国の需要に下支えされ、440ドル/トン台前半から半ばで推移。その後、イラクからの需要で値を上げ、4月下旬現在、450ドル/トン前後で推移。



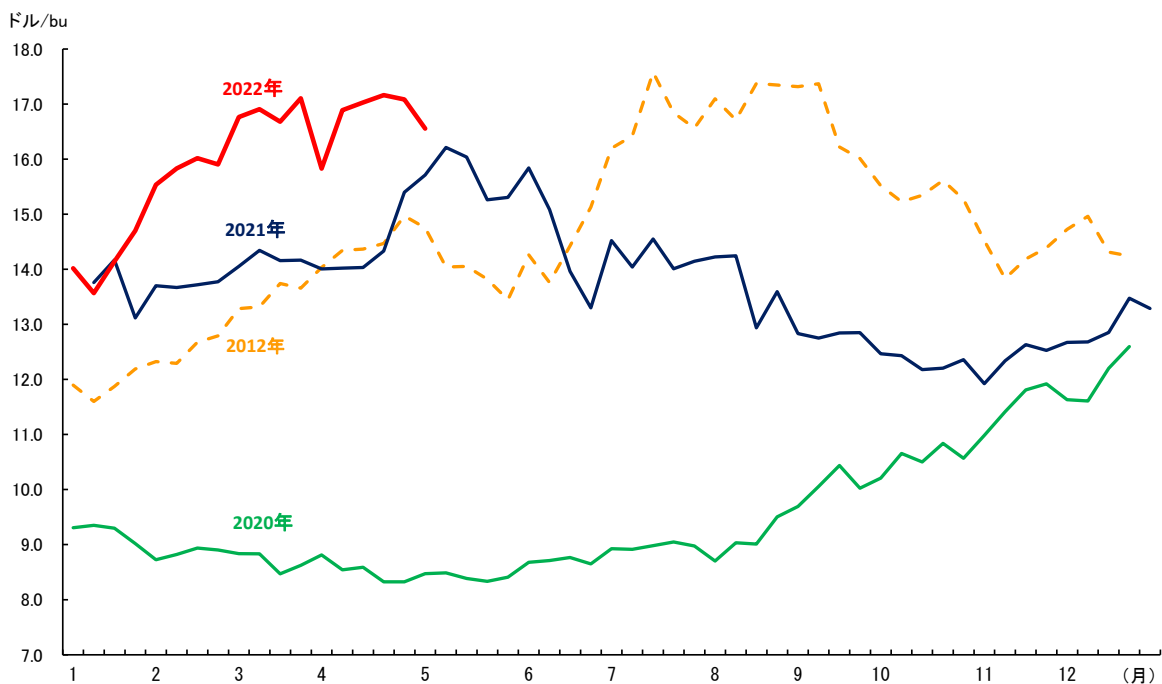
● 大豆：16.56ドル/bu（前年同時期の価格：16.21ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2022年5月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

1月に入り、ラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥懸念等から1月上旬に14ドル/bu台前後まで値を上げたものの、南米の短期的な降雨予報等から一時13ドル/bu台半ばまで値を下げた。その後、再び乾燥による南米の生産量の減少見通し等から16ドル/bu台後半に値を上げた。

2月下旬に、南米の産地の降雨予報や利益確定の動きから一時15ドル/bu台後半に値を下げたものの、3月下旬にかけウクライナ情勢の緊張の中、南米の高温・乾燥によるさらなる減産懸念や、植物油価格全体の上昇等から17ドル/bu台前半に値を上げた。その後、3月末にかけ、市場予想を上回るUSDA発表の作付意向面積から16ドル/bu台前半に値を下げた。

4月に入り、ラニーニャ現象に伴うブラジルの高温・乾燥による減産やロシアのウクライナ侵攻の深刻化、インドネシアのパーム油の輸出規制等による植物油価格全体の上昇等から17ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、コロナ感染封じ込めに伴うロックダウンによる中国の需要低迷の懸念から値を下げ、4月末現在、17ドル/bu前後で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
108.99	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04				

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
45.01	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65				

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

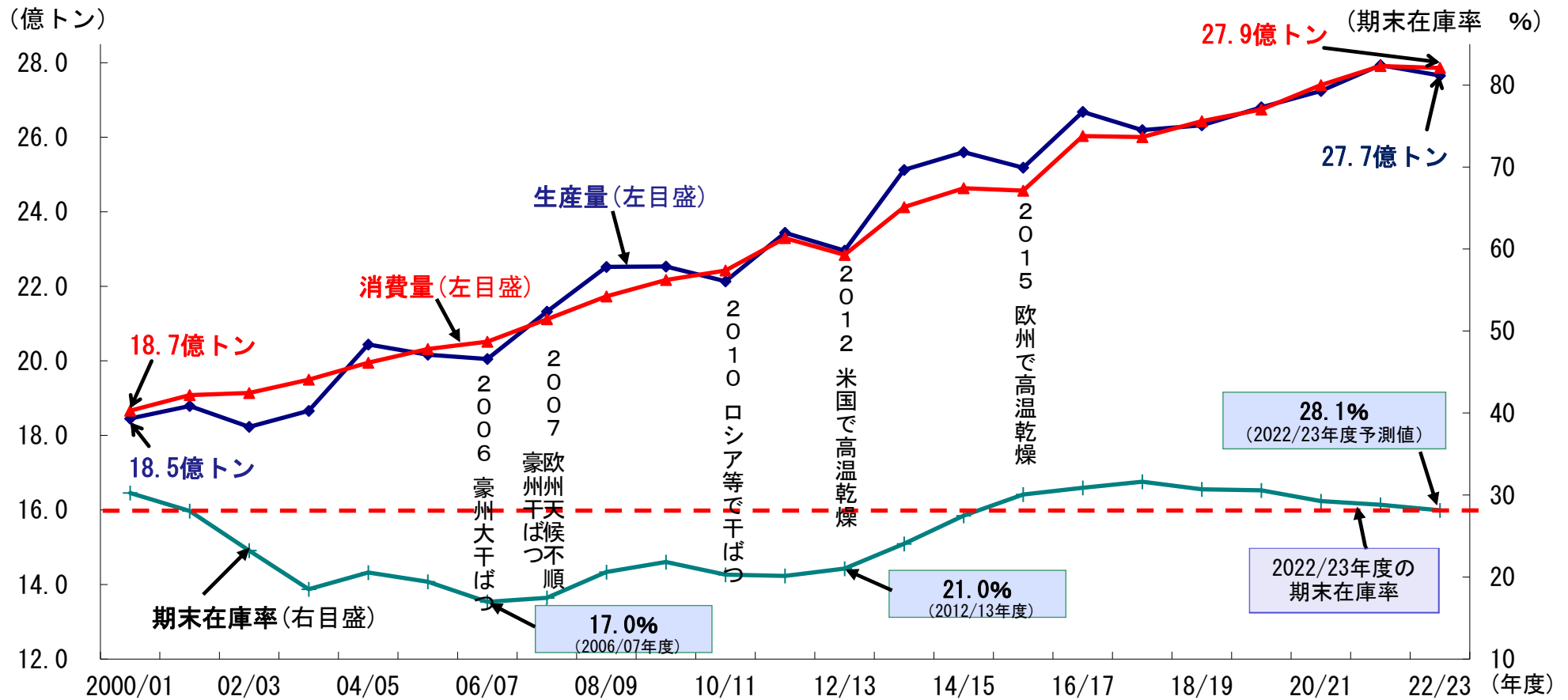
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
57.03	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	107.04				

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和4年4月, 120頁
但し、2022年4月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.1%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (May 2022)、「IPS&D」
 (注) なお、「IPS&D」については、最新の公表データを使用している。